対策工について

資料-3

1. 対策工について

1.1 対策工の方針

【唐船山西側】(図- 1.1 参照)

現状:平成 25 年の暫定対策工事後、一部にぬかるみと覆砂材が混在する場所が残されている。また、施工時の細粒土の拡散によって施工範囲南側に層厚の薄い堆積域が見られる。

対策:平成 26 年 2 月時点のぬかるみ分布をもとに、**全ての範囲に対して浚渫後、原地盤高まで覆砂**する。なお、岩礁部の南側のぬかるみ厚は薄いが、地盤高が低いので、浚渫のみ実施することは、再堆積を助長することとなるので、浚渫後は原地盤高まで覆砂するものとする。

【唐船山東側～T 突堤西側】(図- 1.2 参照)

現状:平成 25 年の暫定対策工事後、新たなぬかるみの堆積や、覆砂材の流出による地形変化は見られていない。暫定対策範囲以外のぬかるみは消滅することなく存在している。

対策:

①海水浴範囲のバートラフ形成域;第2バーまでのぬかるみを浚渫(※1)し、**最小厚さ 30cm(※2)を確保した覆砂**により海岸部の地形を平坦化する。

②点在するぬかるみ;ほとんど移動しない状態であるので、**浚渫した後、個別に原地盤高まで覆砂**する。なお、第 2 バー沖の点線で囲むぬかるみ(図-1.2 参照)は、局所的に地盤が低いので、平坦化するように覆砂する。

※1 浚渫厚さ:ぬかるみ厚さ分

※2 最小厚さ 30cm;人が沈まない厚さ 20cm 以上+余裕 10cm

【T 突堤周り】(図- 1.3 参照)

現状:T 突堤背後東側に深いぬかるみがあり、T 突堤縦部西側に砂が混入したぬかるみがある。ほとんど移動せず、固定化された状態。

対策:2つのぬかるみを**浚渫し、原地盤高まで覆砂**する。

【T 突堤東側～東防砂堤】(図- 1.3 参照)

現状:ぬかるみはほとんど移動せずに分布している。

対策:個別のぬかるみを**浚渫し、原地盤高まで覆砂**する。

潮　位:H.W.L.+1.80m, L.W.L.+0.10m, C.D.L.±0.00m

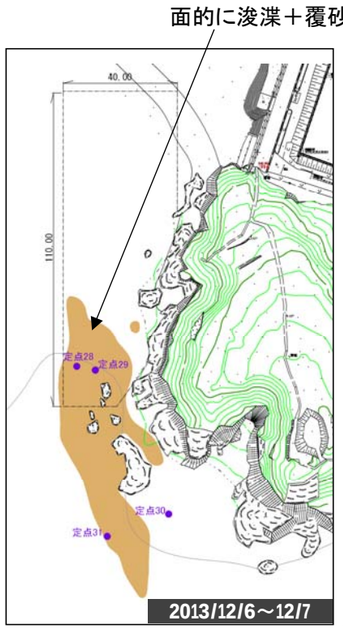


図- 1.1　唐船山西側の対策対象範囲

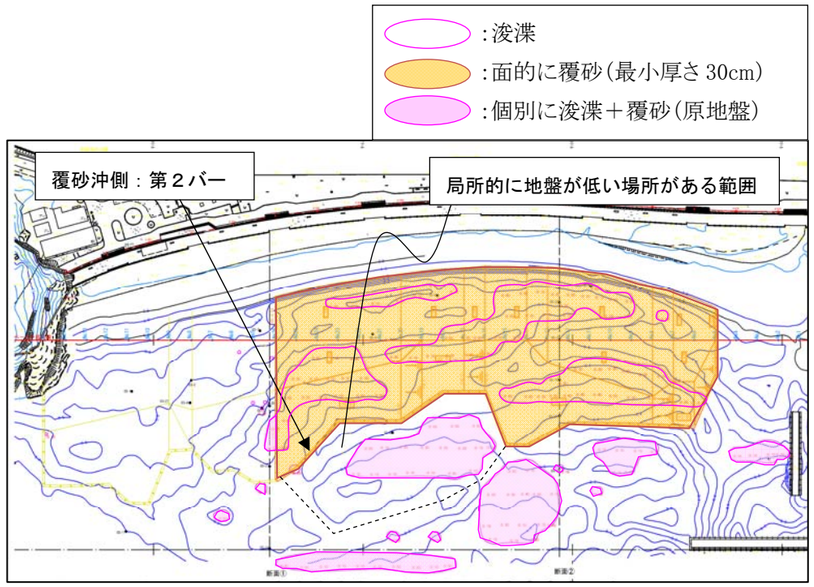


図- 1.2　唐船山東側～T 突堤西側

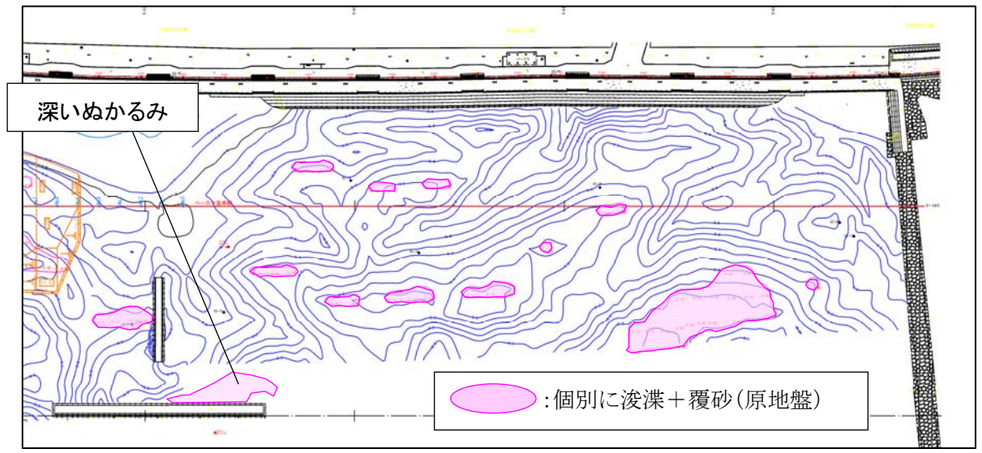


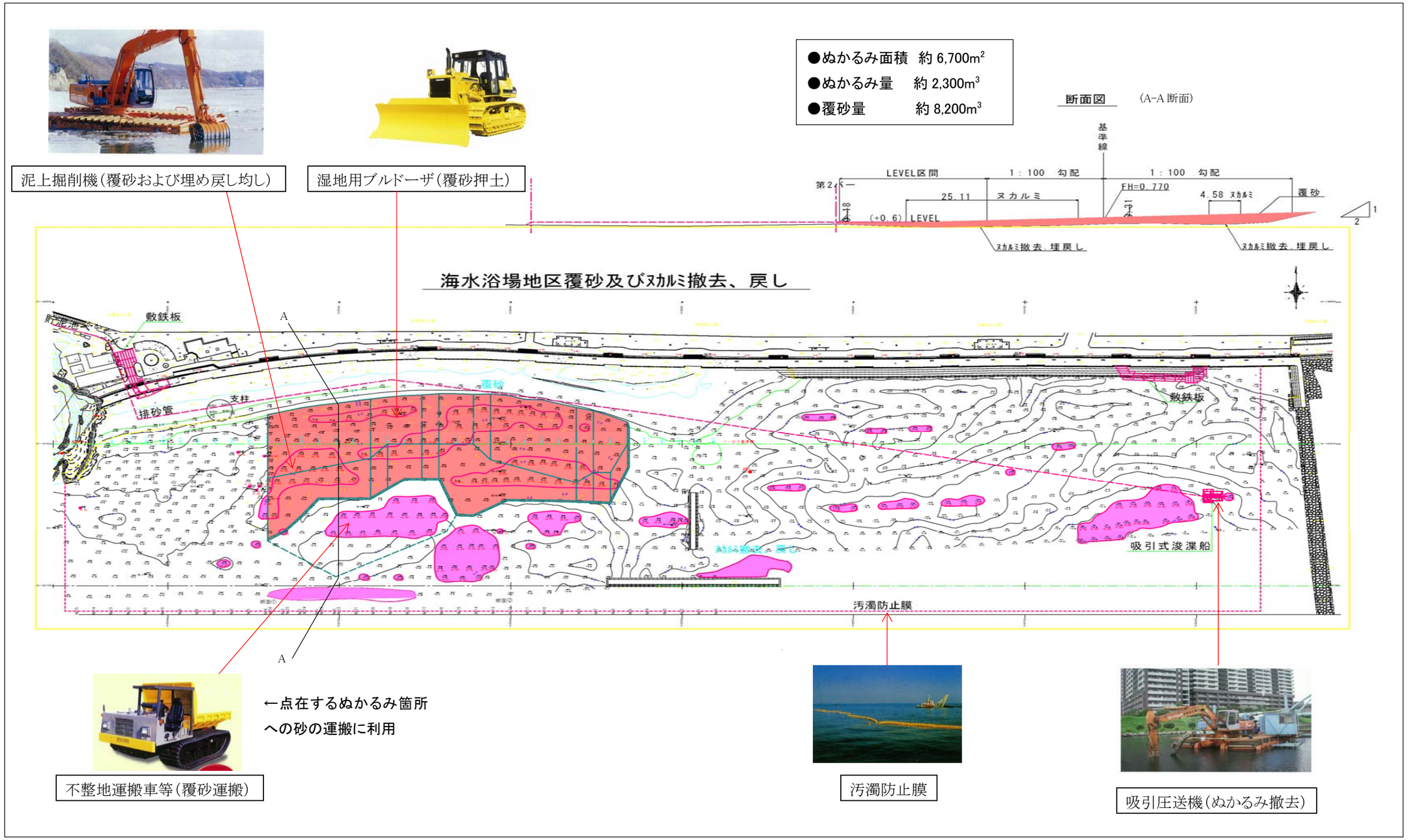
図- 1.3　T 突堤周り、T 突堤東側～東防砂堤

1.2 概略スケジュール

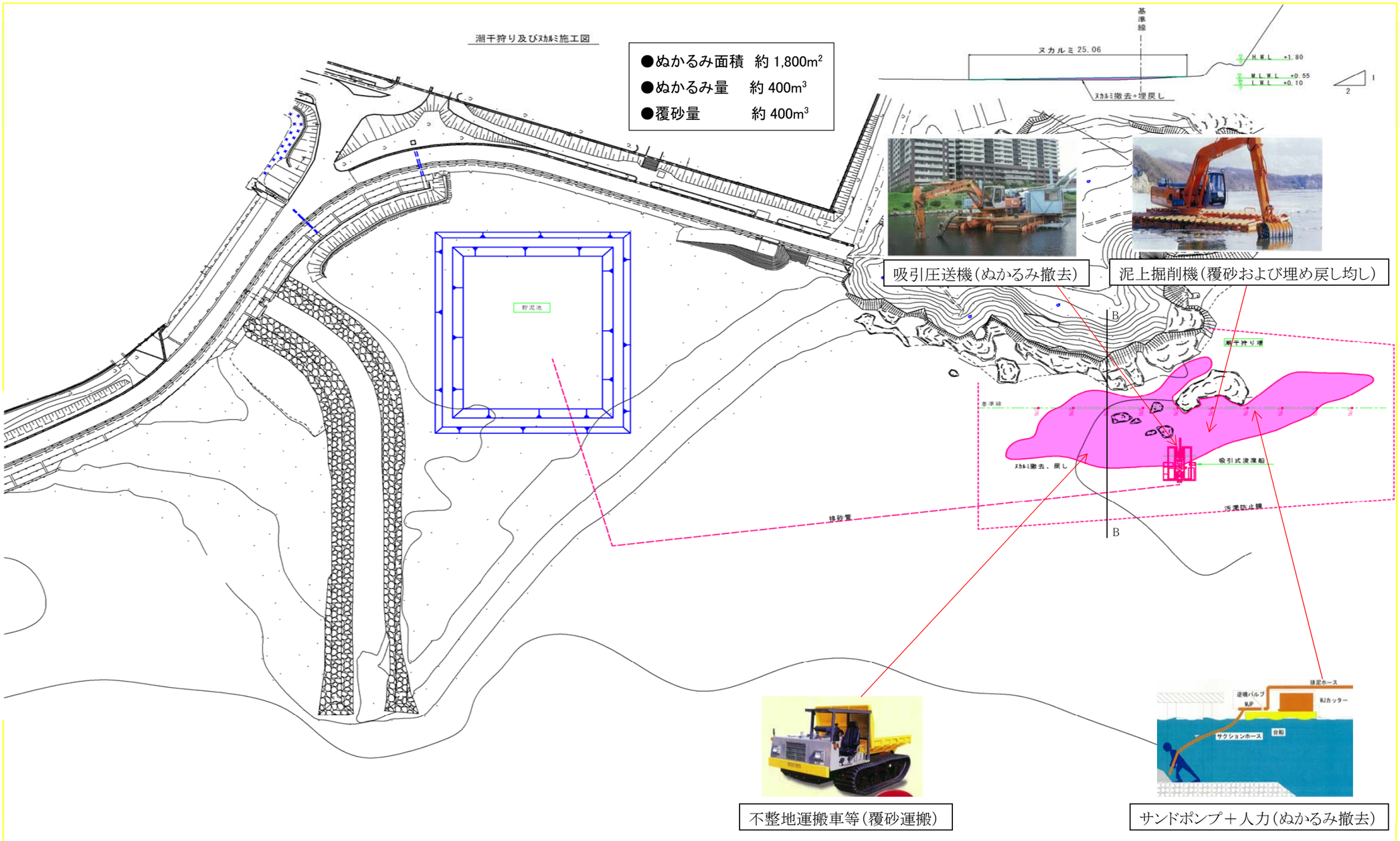
○平成 27 年度より着工予定。
○単年度での施工時期、範囲については、地元関係者と調整しながら決定。
○全範囲での対策工完成には、複数年を要すると想定。

1.3 対策工設計図面及び施工方法

1.3.1 唐船山東側～T 突堤～東防砂堤



1.3.2 唐船山西側


潮干狩り及びヌカルミ施工図
●ぬかるみ面積　約 1,800m²
●ぬかるみ量　約 400m³
●覆砂量　約 400m³
断面図　(B-B 断面)
基準線
ヌカルミ 25.06
ヌカルミ撤去+埋戻し
H.W.L +1.80
M.L.W.L +0.55
L.W.L +0.10
1
2
吸引圧送機（ぬかるみ撤去）
泥上掘削機（覆砂および埋め戻し均し）
貯泥池
B
潮干狩り場
基準線
ヌカルミ撤去、戻し
吸引式浚渫船
汚濁防止膜
排砂管
B
排泥ホース
逆噴バルブ
M.P
M.Jカッター
サクションホース
台船
不整地運搬車等（覆砂運搬）
サンドポンプ＋人力（ぬかるみ撤去）